

# 痔治療 日帰り大半

## 肛門科

医療機関ごとの治療実績を紹介する「病院の実力」は今回、痔を治療する肛門科がテーマ。痔は、怖がったり恥ずかしがったりして

治療を受けるのが遅れて、症状が悪化するケースも多い。治療法や予防策について、県内トップクラスの治療実績がある明石市の「こじま肛門科」の小島修司院長(48)に聞いた。

## 病院の実力

兵庫編29

### 医師から

痔で最も多い「痔核」は、「いぼ痔」とも呼ばれる。温水洗浄便座の普及で、症状が極度に悪化した患者は減ったが、同病院でも患者の約半数を占めるといふ。

同病院は、患部を手術で切除する結紮切除術を年間850件、肛門の内側にできる内痔核に薬品を注射する治療法「ALTA(内痔核硬化療法)」も年約150件実施

こじま肛門科 小島 修司院長 48 (明石市)



施。小島院長は「今後の治療の主流は大きな副作用がないALTA

だが、適切な位置に注射することが必要で、経験豊富な医師が行うことが大事」と強調する。

痔核に次いで多いのが、切れ痔の「裂肛」だ。硬い便が肛門周辺を傷つけることで起き、便秘に悩む女性などに多い。治療は投薬が中心になる。小島院長は「排便時に力むのはあまり良くなく、出なかったらあきらめることも痔の予防には大切です」とアドバイスする。

男性に多いのが、肛門周辺に膿のトンネルができる「痔ろう」だ。同病院では、特殊な医療用ゴムをトンネル部に通し、体が異物を押し出す

小島院長は「恥ずかしがって受診を先延ばししていたら、実は大腸がんだったというケースもある。痔はほとんどが日帰りで治療できるようになったので、まずは勇気を持って受診してください」と話している。

「まずは勇気を持って受診を」と呼び掛ける小島院長(明石市で)

ような地域の文化が残っていることを、近所の人にも教えてあげたい」と話している。

シンポで 報告

## iPS細胞研究 難病中1協力

告された。

iPS細胞(新型万能細胞)を使った病気の研究をテーマにしたシンポジウムが3日、神戸市中央区の臨

細胞を作った同所長の山中伸弥・京都大教授らと面会し、自らの皮膚細胞を研究のため提供したことを紹介

### 250点

術家ら



色紙(紙)

できるのが特徴だ。2日のジャズピエトロの小曾根真さんが披露した『ジュノム』は、2大ピアノの演奏会や、弦楽アンサンブルなどが開かれる。1日の「魔